

『帝国主義』論に学ぶ

第 2 回

東京ブロック

レーニンは、労働者に何を訴えたかったのか

司会：今回から奥山が担当します。

前回は、「なぜ『帝国主義』論を学ぶのか」について学習しました。今回は、齋藤邦彦東京ブロック事務局長から、「レーニンはこの『帝国主義』論で、私たち労働者に何を訴えたかったか」についてレポートしてもらいました。

まず、レーニンを知ることから

齋藤：社会主義国の東欧・ソ連邦が崩壊して30年以上が経ち、その後生まれ育った若い労働者たちは、レーニンという革命家は、どのような人であったのか知らない人が多いと思います。

それを知るために、彼とともに歩んだ妻・クルプスカヤ著『レーニンの思い出』と向坂逸郎著『レーニン伝』などを読み返しまとめてみました。

1870年4月22日に生まれたレーニンには、姉、兄、弟、妹がいました。彼が16歳の時に父が病で亡くなりました。兄は大学で絶対君主制に反対する政治活動に参加し、アレキサンドル三世暗殺未遂事件に関与したことで逮捕され、レーニンが17歳の時に処刑されました。その後、レーニンの家族は、投獄・流刑となりました。流刑地でレーニンは、猛勉強し、弁護士補の資格を取る一方、革命団体と

知り合いマルクス主義を学び始めました。流刑先のウファでクルプスカヤと再会し1898年7月に結婚しました。

流刑期間が終了する1900年2月までの間に、レーニンは、流刑地を一時的に抜け出し、亡命中のプレハノフ（ロシアのマルクス主義の父）と「労働解放団」のメンバーに会いました。流刑最後の年にロシア社会民主労働党の組織プランを作り上げ、流刑期間終了後に、全ロシア新聞『イスクラ』を創刊し活動を展開しました。

ロシア政府からの追及が厳しくなりレーニン夫妻は、1902年4月にミューンヘンからロンドンに移住しました。

## 第一次亡命生活の始まり

レーニン夫妻は、来るべき革命の原動力を探ろうとイギリスの労働者の群がる場所（大衆食堂、酒場、集会など）に出かけ、労働者の話に耳を傾け、産業革命以降に発展した資本主義を目の当たりにしたりして日々を過ごしました。また、大英博物館の図書館の豊富な書籍や資料をもとに研究を行う一方、第2回党大会の綱領案の準備をしました。

## 第2回ロシア社会民主労働党

### 大会党綱領をめぐって

#### 激しい論争が



移して開催されま

1903年にブリュセルで開催予定であった第2回ロシア社会民主労働党大会は、警察が動き出したため

した。この大会で、プレハノフらと党綱領を巡って激しい論争が起きました。反対していた『イスクラ』編集局のジュネーブ移転も決定され、レーニンは精神的に追い込まれました。このような理由からレーニンは、プレハノフに対する不信を抱きました。

1904年に日露戦争が始まります。

戦争の敗北を信じていたのはポリシエヴィキ(注)だけでなく、メンシエヴィキ(注)や自由主義者ですら敗戦論者でした。ロシア国内では、日本軍に対する相次ぐ敗北とそれを含めた帝政に対する民衆の不満が増大し、民衆の暴動の波が起こっていました。このようなロシア国内情勢にあつて、あらゆる党派が馬脚を現しはじめました。メンシエヴィキは、自由主義ブルジョアジーに依存して、「革命を解除しなければならぬ」と正体を露呈しました。レーニンは、革命の当初から革命的民衆は途中で留まることなく、労働者が専

制政治と一戦を交えるだろうと考えていました。

1905年1月9日、ロシア第一次革命のきっかけになった「血の日曜日事件」が発生します。しかし、この革命（1905〜1907年）は労働者階級の敗北に終わりました。レーニンは、革命の敗北を総括し、労働者階級の革命的エネルギーの巨大な貯え故に労働者階級は打ちくだかれなかったが、党の組織的欠陥が露呈したと考えます。  
\*（注釈）1890年代に入り、ロシアの工業化の進展とともに、労働運動が興隆し、社会民主主義（マルクス主義）グループが形成された。1898年にロシア社会民主労働党設立大会。1905年のロシア第一次革命が始まる。メンシエヴィキ（少数派）は革命の性格を「ブルジョア革命」と規定した上で「急進的な革命的反政府党」とどまることを決定した。それに対してポリシエヴィキ（多数派）は「プロ

レタリアートと農民の革命的民主主義的独裁」というスローガンを掲げた。

### 再度、マルクス主義を研究する

そこで、彼は、マルクスやエンゲルスの革命論についてのあらゆる書物を研究し、考え抜き、当時のロシアは農民の広範な革命運動の高まりがあることから、農民と強固な同盟を構築することが必要だという考えに至りました。ロシア警察の追及、挑発者が拡大する中で、レーニン夫妻の苦闘の第二次亡命生活は、1906年から1917年まで続きます。

### 帝国主義戦争の必然性を説き

#### 「帝国主義論」を書き上げる

1914年、第一次世界大戦勃発直前の6月に首都ペテルブルグで28万人、対独宣戦布告前には30万人の労働者がストライキを行いました。ロシア全土にストライキの波が広がり、参

加者は200万人に達しました。それにも拘わらず、帝国主義諸国の一大脅威となっていた第一インターナショナルは第一次世界大戦の嵐が吹き荒れる中で崩壊しました。

このような情勢の中でレーニンは、1916年春に亡命地のチューリヒで「帝国主義論」を書き上げました。戦争中にもかかわらず彼は、ロシア国内外の運動に指導を与え続けました。また、亡命地スイスの労働者にも影響を与えることも怠りませんでした。

ロシア革命の成功と第二インターナショナルの創設に向けて、ドイツ・イギリス・フランス・アメリカ・日本を中心にした帝国主義諸国の労働者階級に向けて、レーニンは「帝国主義は植民地の再分割を求める世界戦争に必ず導くこと」「その帝国主義戦争を革命に転化し社会主義を実現すること」を「帝国主義論」通じて訴えたのです。レーニンは、ボリシエヴィキ党をつ

くって、党が団結して一致しなければ革命を起こすことができない、と考えました。先進資本主義国は不均等発展するけれど、必ず労働者階級の闘いが起こると、レーニンは確信を持っていたということです。

レーニンは第一次亡命生活の時代に産業革命によって資本主義が発展していたイギリスについて、ロンドンで労働者たちの集まる場で彼らが「もう革命の状態ではない」と語っていたといっています。それは労働貴族が労働組合を抑え込んでいるためでした。ブルジョアジーが、なぜ、労働貴族を作り出したのかも研究しました。

司会：齋藤さんありがとうございます。皆さんから質問や意見はありませんか。芳賀：レーニンの人となりはよく分かりました。私たち労働者に何を訴えたかったのか、齋藤さん焦点を絞って説明してください。

常に労働者大衆の中に入って、

### 一緒に考え行動を起す

齋藤…1902年頃には、帝国主義戦争が起ころうと確信していたレーニンは、その事柄を労働者はどう見て



考えているか、労働者の中に入って一緒に考えてきました。レーニンは、常に労働者の幹部でなく、労働者大衆の中に入って、産業革命後のイギリスの労働者階級の状態などを

ぶさに研究しました。

島田…今の日本社会と一緒にではないか。組合幹部が腐っている。労働組合が腐っている。

司会…今まさにそういう状態です。

齋藤…あくまでも、レーニンは労働者階級の中に入って、話し込み、労働者は何を感じ、何を考えているか、分析しながら、来るべき革命への準備その一方で、世界資本主義がどのような発展を遂げて、この先どのような分析も怠らなかつた。

島田…労働者の中に入って、労働者が何を考えているか、労働者の声を一つひとつ集めていく。今どき大労組幹部には、そんなことをやる人はいないんじゃない。

司会…レーニンの極左的な兄は、ロシア皇帝の暗殺未遂事件を起こし処刑された。レーニンは、そういう方法は間違いだと思つて、大衆闘争路線をとつた。

佐久間…そういうことをやった人です、というならよくわかる。

芳賀…第一次世界大戦が勃発した当時ドイツの労働者は「ドイツがこの戦争に勝てば、自分たちが幸せになれる」と帝国主義戦争に賛成していった。

今の日本も同じだ。「自分の会社が儲からないと自分たちの生活が良くなる」と、思い込んでいます。

しかし、レーニンは、「帝国主義戦争に賛成することは資本主義が延命するだけで、本当に人間らしく生きられる社会にはならないよ」と、ロシアでの活動を展開した。

京成電鉄現役の島田さんは、『月刊道しるべ』というニュースを持って労働組合の組合員に配っている。配るだけでなく組合員と話し込み、問題を解決しようとしている。

齋藤…ただ配るだけでなく、話し合う。そこが重要です。

佐久間…レーニンは労働者の中に入っ

## ◆みんなの学習講座

た。更に、裏切ったカウツキーの日和見主義理論を徹底的に批判した。という事ですネ。

誰かが述べたように、カウツキーのように組合員を裏切る役員はいつの時代にも周りにいますね。全電通(全国電気通信労働組合)をつぶした山岸章初代連合会長はそうであり、女性初の会長ともてはやされている現会長もそうですかネ。

齋藤…ロシア社会民主労働党をメンシエヴィキが牛耳る中で、レーニンは同党を飛び出すのではなくボリシエヴィキの組織的な団結を強めて、メンシエヴィキから指導権を奪っていきました。佐久間…党の団結を言うのであれば、今の日本の階級政党的現状はどうなのか、新社会党の現状は、労働者階級の期待や支持を集める存在になっているのか、大丈夫か!?

齋藤…プレハノフやカウツキーらは、マルクス主義の教説では世界的な権威

者でしたが、第一次世界大戦を通じて背教者(マルクス主義を捨て去る)に変貌したのです。彼らに対し、レーニンはマルクス主義の教説を守り、理論と実践を結合させてロシア革命を成功させたのです。

### 「帝国主義戦争」賛成は

#### 最大の裏切り

司会…先生と想っていたプレハノフやカウツキーは裏切っていくわけです。

「帝国主義論」を書いてくれとレーニンが頼まれた時に、プレハノフは、これを出したらダメだ、と妨害した。この時二人は、ブルジョア側と共に歩みだしていたから、一番攻撃してきたのは、カウツキーでした。

なぜなら、当時、革命情勢にあったのはドイツでした。ドイツ社会民主党のリーダーはカウツキーでした。1890年代には党員が100万人、党の機関紙購読者が1千500万人、有効

投票83%で110の議席を有し、ドイツ帝国議会の第1党です。第1党だから多数派で政権は取れる、というところまでできていた。

ところが、ドイツが仕掛けた第一次世界大戦が起きると、ドイツ社会民主党は、植民地の再分割を求めて起きた帝国主義戦争である戦争にもかかわらず賛成します。「祖国防衛」だと、これが最大の裏切りでしょう。だって、戦争といえば労働者が真っ先に戦場へ送り込まれ、労働者同士がお互い殺し合いをしなければならぬ。多大な犠牲は全部労働者階級にかかってくる。ブルジョアや権力者は後ろにいて、戦え、戦え、と言っていればよい。

戦争に賛成するという最大の裏切りは許されない!!

この時の経済状況を分析したカウツキーは、「超帝国主義」といつて、経済分析を誤ってしまう。要するに独占体が出てきたが、これは「超帝国主義」



ロシア革命「冬宮を攻撃する革命軍」

でいずれ世界が一緒に（ひとつになつて）、お互いの戦争はなくなる、という誤った理論に基づいたものです。

レポーターが言ったように資本主義は「不均等発展」します。資本は、生き残りをかけて熾烈な競争をしているわけで、「いずれ一緒になる」なんてあり得ない。労働者階級は資本家を倒さないかぎり、自分たちの真の解放、

幸せは来ないと、レーニンは確信していました。

裏切りによつて、当面のドイツ革命は頓挫しました。あとはロシア一国でまず実現させるしかないと考えて、そのためには間違つた理論では間違つた戦略・戦術になる。だからちゃんとした経済分析をしようよ!! というのがレーニンの「帝国主義論」ですね。

### ツァーリズム検閲を考慮し執筆

齋藤…最後に付け加えると、レーニンは、本書の1917年4月26日の序言に、「ツァーリズムの検閲を考慮しながら」（11頁）執筆したとお断りをいれた上で、結論的に、「帝国主義が社会主義の前夜であること、社会排外主義（ことばのうえででは社会主義行動のうえででは排外主義）が社会主義への完全な裏切りであり、ブルジョアジーの側への完全な移行であること、労働運動のこの分裂が帝国主義の客観的

諸条件とむすびついていること、等々については、私は『奴隷の』ことばで語らなければならなかった。」（12頁）「この小冊子が、現在の戦争と現在の政治とを評価するうえで、それを研究しておかなければならぬものをも理解できない基本的な経済問題、すなわち帝国主義の経済的本質に関する問題を解明する一助になることを期待したい。」（12頁）と結んでいます。

司会…ありがとうございます。

次回は、東京北部県協の宮田光市事務局長に、「社会発展の必然性・法則性」について、レポートしてもらい学習したいと思います。